

国際環境 NGO
グリーンピース・ジャパン

年次報告書

20 23



GREENPEACE

気候変動のリスクと被害の影響を実感する1年でした。この危機を回避しようと、緑豊かで平和な未来のために、世界で300万人以上のサポーターがグリーンピースとともに活動してくださいました。日本、アジア、そして世界各地のたくさんの成果はすべて、サポーターのみなさんと一緒に成し遂げたものです。



ドイツが脱原発達成！ 再エネ100%を目指して



稼働していた最後の3基が送電網から切り離され、ついにドイツで脱原発が実現しました。2000年には国内の発電に占める原子力の割合が30%だったドイツ。昨年2022年に6%に、そしてついに2023年4月に原発ゼロを達成しました。

ドイツは再生可能エネルギーの割合も、2000年の7%から45%へと大幅に伸ばしています。脱原発を達成したいま、2035年までの再エネ100%が新しい目標です。グリーンピースは科学的根拠に基づいて、何十年も反核運動を続けてきました。平和と持続可能な未来を願うすべての人の希望となるマイルストーンとして、この達成を祝いましょう。原発を卒業し、再エネを選択する未来が市民の行動により実現しました。

TikTokの親会社が2030年の カーボンニュートラル目標を発表



TikTokを始めとするソーシャルネットワーキングアプリを運営する中国のインターネット企業「バイトダンス」が、2030年までに使用するエネルギーを100%再生可能エネルギーにすること、そして、同じく2030年までに温室効果ガスの排出量を90%削減し、実質ゼロとすることを約束しました。グリーンピースとの再エネをめぐるコミュニケーションの末に発表された素晴らしい決断です。

今回、大きな意味のある決断を公表したバイトダンスですが、グリーンピースが2022年に発表した中国のクラウドプロバイダーを分析したレポートでは、気候貢献において、ワースト企業の一つにランクされていました。バイトダンスに再エネ100%へのシフトを呼びかけてきたグリーンピースは、世界のサポーターとともにこの選択に敬意を表し、歓迎します。

戦争による環境への影響を公表

ロシアがウクライナに侵攻を開始してから2024年2月24日で2年になります。戦争による自然環境への影響は計り知れません。2023年、グリーンピースは、ウクライナのNGOと協力し、戦争による自然環境への影響をマップにまとめました。

戦争の影響は、爆発の生成物による気候変動や酸性雨の促進、石油プラットフォームなどへの攻撃による石油流出、ソナーを搭載した戦艦によるクジラ類への悪影響、土や地下水の汚染、砲撃による森と生態系の破壊、チョルノーベリ高度汚染地域の土壌の攪拌など多岐に渡ります。戦争は最大の自然破壊です。これまでに124万ヘクタールの自然保護地域が影響を受けたことが調査によってわかっています。

Global Campaign グリーンの輪は国境を超えて



海を守る「海洋保護条約」が 国連で合意

2023年3月4日、各国地域の政府がついに公海の生物多様性の保全と持続可能な利用を目指す「海洋保護条約」に合意しました。条約の実現を目指して活動してきたグリーンピースと、世界各国から集まった500万人以上もの人々の声の後押しし、実現した大きな前進です。日本からも1万6000人以上の賛同者の声を政府に届けました。



ヒュンダイがアマゾン違法採掘などの 用途への販売を中止

アマゾンの違法採掘現場に、HDヒュンダイ建設機械(HD HCE)子会社が製造した油圧シャベルが多く使われていることをグリーンピースが突き止めました。グリーンピースはHD HCEに違法採掘への加担を止めるように求め、HD HCEはこれに応じてアマゾン採掘などの違法用途への重機の販売を中止し、アマゾン保護に尽力することを宣言しました。先住民との協力体制、素早い現地調査はグリーンピースの強みのひとつです。



アマゾン川の石油掘削許可 取り消しに成功

ブラジル環境・再生可能天然資源院が、ペトロブラス社へのアマゾン川河口で石油採掘をする認可を取り下げました。グリーンピースはアマゾン川河口に驚くほど豊かなサンゴ礁が広がっていることを調査によって確認し、国際的に報告しました。ブラジル政権が石油プロジェクトを阻止し、アマゾン川河口の貴重な海洋生態系を守った大きな成果です。アマゾンで守られるべきは森林ではありません。



「自動車環境ガイド」発表

日本企業を含む世界の自動車大手 15 社を対象に、気候変動への具体的な取り組み度合いを評価する『自動車環境ガイド 2023』を発表しました。第3回目となる今回のガイドは国内外のメディアに取り上げられ、自動車会社の脱炭素への取り組みの目安となっています。自動車産業は現在、その製造過程や最終製品から炭素を急速に減らしていくことが世界的に期待されており、グリーンピースが世界的な影響力を駆使して取り組む重要なテーマのひとつです。



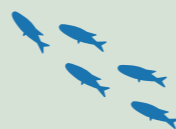
リユースカップシステムの環境優位性を実証

リユースカップの仕組みが使い捨てカップと比べて実際にどれくらい環境に良いのかを調査した報告書『リユースが拓く未来』を発表しました。東アジアでは初となるリユースシステムに関する本調査は、まだ社会的な拡大段階に至っていない小規模なリユースカップシステムであっても、使い捨てカップより環境面で優れていることを実証し、大きな注目が集まっています。

テイクアウトで使われるリユースカップと使い捨てカップ、それぞれの環境負荷について資源採取や原料生産から、流通、消費、廃棄やリサイクルに至るまでのライフサイクルの全体において数値化した今回の調査は、実際の事業者データを基に網羅的に環境への影響を評価した画期的な調査となりました。調査結果によれば、リユースシステムは、たとえ導入規模が小規模であったとしても、使い捨てカップの利用よりも環境負荷が低いことがわかりました。より多くの人々がリユースカップを使うほど、また、リユースカップの取り組みが大きく広がるほど、環境に与える負荷もより低くなります。こうした調査をもとに企業や自治体と対話を進めています。これにより、使い捨てカップからリユースへの流れを生み出すことが期待できます。

深海採掘に反対！ 100万人以上が署名に参加

いのちのゆりかごである海の中でも、深海は生物多様性の宝庫です。グリーンピースは資源開発のための深海採掘に反対しており、活動には日本も含め現在 100 万人以上の賛同が世界中から寄せられています。破壊的な採掘産業の立ち上げを阻止するため、世界が団結しています。



2023年を振り返って

2023年は観測史上で最も暑い年となりました。この記録はこの先も更新されていくでしょう。しかし、いま「気候危機を止めたい」と真剣に願う市民の輪は大きく強く広がっています。これを読んでくださっているあなたこそが、その輪を強くしている大切な存在です。

約20年の交渉の末、ついに2023年、海洋保護条約が合意されました。世界の海のわずか1%しかない海洋保護区を2030年までに30%へ広げる出発点に私たちは立ちました。海洋保護区30%という数字は、自然が回復力を発揮できる分水嶺を示しています。

グリーンピースの情熱的な行動は常に科学的根拠に基づいています。目指すべき明確な目標から逆算し、戦略を練り計画を立て活動しています。こうした活動のためには、財政的独立が不可欠です。だからこそグリーンピースは創設以来、企業や政府からの財政支援を受けることなく、お一人お一人のご寄付だけで活動を続けてきました。

100年先の子どもたちに美しい地球を届けるために、やるべきこと、変えなければいけないものは山積みです。しかし、誰もそれを一人でやる必要はありません。グリーンピースの環境保護活動は世界中にいる300万人のサポーターに支えられ、前進しています。問題を解決したいと願うあなたは、一人ではないのです。

グリーンピースの活動の主役は誰でしょうか？

年齢や職業に関係なく、世界中の市民が、より明るい未来のためにグリーンピースと一緒に行動しています。変化を起こしているのは、いまこれを読んでくださっているあなた。

希望の物語の主人公はあなた自身です。

私たちがともに実現させようとしているのは、緑豊かで平和な地球環境だけではありません。これを読むあなたの心の安らぎもその未来には欠かせない大切なものだと思います。

「グリーンピースがいてくれるから大丈夫」— グリーンピースで働くすべてのスタッフは、そう安心していただけるよう信頼にこたえ、ゆたかな未来を実現させるパートナーであり続けるために全力を尽くします。



S. Anesley

グリーンピース・ジャパン
事務局長

サム・アネスリー

Climate & Energy 気候のことは暮らしのはなし

「3.5%のルール」をご存じですか？
3.5%の人が想いを行動に移した時に、影響が伝播し社会が変わるという統計と研究に基づいた法則です。グリーンピースは「3.5%」の仲間をつくり、社会を変える活動に取り組んでいます。たくさんの市民、そして各分野の専門家と協力して生み出した暮らしの変化をご紹介します。



愛知県豊田市のトヨタ自動車本社で開催された同株主総会でEV転換の早期推進を求めアクションするグリーンピースのメンバー（2023年6月）



学校教室の断熱を求め、記者会見を行うグリーンピースが事務局を務める「ゼロエミッションを実現する会」の横浜のチーム（2023年8月）



ペンライトを使ってG7各国のリーダーに平和で安全な未来を求める光のメッセージ（2023年5月）

『自動車環境ガイド2023』の発表

車の未来は地球の未来を大きく左右します。日本には世界的な自動車企業がたくさん存在しますが、販売台数で最大の自動車メーカーであるトヨタはその代表です。6月14日、トヨタ自動車の株主総会が愛知県で開催され、グリーンピースのスタッフは、東京事務局からの道のりの一部を電気自動車（EV）で走り、株主総会会場の同社本社前で、同社が2030年までにEVへシフトするよう呼びかけました。

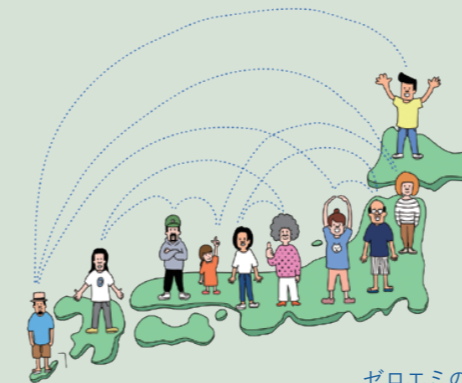
10月には世界の自動車大手15社を対象に、各社の脱炭素の具体的な取り組みを評価する『自動車環境ガイド2023』を発表しました。同ガイドは国内海外の複数のメディアに取り上げられています。日本メーカーの結果は、15社中、ホンダが最高の10位、続いて日産が11位、トヨタは13位、今回初めて対象としたスズキは15位でした。グリーンピースは、車のゼロエミッション化のみならず、誰もが安心して利用できる公共交通機関や、徒歩や自転車のような低炭素の移動のあり方を提唱し、それを実現させるために取り組んでいます。

仲間と一緒にまちを変える！ 学校断熱、自治体の目標値引き上げに 貢献

2023年は観測史上地球が最も暑かった一年でした。日本では、基準に合わせた学校の断熱改修が国主導で行われたことがなく、多くの子どもたちがうだるような暑さの中で、授業を受けています。グリーンピースが事務局を務める「ゼロエミッションを実現する会（以下ゼロエミ）」の横浜のチームの主導で約2万7000人の賛同を集めました。8月29日に、学校教室の断熱を求める市民の声と要望書を文部科学大臣に手渡し、専門家も参加し、学校断熱改修の必要性を訴えました。記者会見もおこない、広く全国に報道されました。

11月には、東京都国立市が、全国トップレベルの温室効果ガス削減目標案を公表しました。ゼロエミ国立のメンバーの大活躍が実現させた数字です。市長にプレゼンを行ったり、市民の応援の声を可視化したり、専門家に試算を依頼したり、戦略的に活動して、CO2排出量（2013年比）62%という高い目標値が草案に採用されました。一人ひとりが住むまちを気候変動対策から変えていくゼロエミの活動は社会をより持続可能なあり方へと変えています。いま、「気候

危機をなんとかしたい」と思う人は少なくありません。その一方、きっと多くの人が「たった一人で何ができるだろう」と一歩を踏み出す勇気と機会を持っていないのではないのでしょうか。グリーンピース、そしてゼロエミは一人かもしれないけど思いを持ったそうした個人を繋ぎ支え、社会を変える大きな力を生み出しています。「一緒ならできる！」— **あなたも参加しませんか？**



©リック・ベッジオ
ゼロエミのウェブサイトより
全国に広がるゼロエミネットワーク

世界のリーダーにみんなの声を届ける

2023年には、環境にとって非常に重要な国際会議が数多く開催されました。市民の声を集めて、世界の

リーダーたちに届けることはグリーンピースの大切な活動のひとつです。

5月、広島市でG7サミットが開催されました。グリーンピースは、G7にオブザーバー参加するとともに、「気候も暮らしも救うエネルギー政策」を求めて現地でアクションをおこないました。また、約1500人の声をG7の議長を務めた日本政府に提出しました。いま、日本は世界から化石燃料依存からの脱却を求められています。グリーンピースは速やかな化石燃料からの脱却と、再エネの普及のため、政府への実効力ある提言と働きかけを続けています。

11月30日から12月13日にかけては、アラブ首長国連邦（UAE）ドバイでCOP28が開催されました。成果文書には「2030年までに再エネを3倍、エネルギー効率を2倍にし、化石燃料からの脱却を加速する」旨が明記されました。しかし、成果文書には、特に先進国が果たすべき責任にそぐわない誤った解決策や、1.5度目標と合わないアプローチも含まれました。グリーンピースは、この機会にも日本政府に対し、責任のともなうリーダーとして、国内で2030年までに再エネ3倍を目指すこと、化石燃料からの速やかな脱却を求めました。

アートで感じる「私と気候」のこと

平和的なムーブメントは見る人を勇気づける力があります。特にアートが市民運動と融合した時、そこには想像以上の訴求力が生まれます。グリーンピースはアートの力に注目し、2023年に気候の変化を体感できる2つのアート展示を行いました。

秋の代々木公園では、「紅葉のない未来」を体感できるデジタルアートブース「エラーコード：秋」の設置をおこない、来場者約900人が美しい秋の紅葉と気候変動の影響について想いを馳せました。「考えるきっかけになった」、「床の落ち葉や木の匂いと、デジタルの融和がよかった」といった声が寄せられています。失いたくないものの尊さを五感に訴えるデジタルアートという新しいアプローチです。

ブース内の展示は美しい秋の紅葉と気候変動の影響を体感してもらえるよう、趣向を凝らして設計されました。不安を感じてしまうことの多いテーマですが、失いたくないものの尊さを五感に訴えるデジタルアートには、多くの方が笑顔と感嘆の声をあげていました。ボランティアが運営に参加、会場を盛り上げてくれました。

11月には、東京の表参道で来場者参加型のアート展「HELP展 ～30年後には消えてしまうかもしれない～」を開催しました。クリエイティブユニットHAKUAと共同で企画・実施したプロジェクトです。日本に迫る気候危機を五感で「感じられる」アート展とするために、ぬいぐるみ作家の片岡メリヤスさんや、八剣神社宮司の宮坂清さん、料理研究家の土井善晴さんから多様な作家、文化人の方々と協力し、会期中の来場者数は750人以上、企画は多数のメディアで紹介され、大きな反響を呼びました。また新しい展示会のあり方を示す社会実験として、ゴミが出ない展示会を目指し、来場者が展示品や会場造作を会期終了後に持ち帰ることができるように設計した点にも多くの好評の声が集まっています。

出展された映像作品「御渡り/MIWATARI」は、気候変動についての作品を取り扱う国際映画祭のドキュメンタリー部門にノミネートされ、その後、2024年2月に最優秀賞に当たるドキュメンタリー部門審査員大賞を受賞しました。アートで気候変動を自分ごとにするアプローチに挑戦し、「グリーンピース×アート」が成功した2023年でした。



デジタルアートブース「エラーコード：秋」内で、壁一面に投影された未来の秋の様子（2023年10月）



気候危機によって脅威にさらされている動物たちのぬいぐるみなどを展示（2023年11月）



鈴木 かずえ

気候変動・エネルギー担当

「思慮深く献身的な市民の小さな集まりが世界を変えられることを疑ってはなりません。実際、まさにそうした人たちが、世界を変えてきたのです」。文化人類学者マーガレット・ミードの言葉は、ゼロエミを立ち上げ、グリーンピースから事務局を担当する私の原点です。ゼロエミはお互いが生徒であり先生である民主主義の学校。今後もみんなの力で変化を起こし続けます。



高田 久代

プロジェクト・マネジャー

グリーンピースで働き始めて、約15年。ずっと環境問題に取り組んできました。環境問題が、いつの間にか一部の人が考える難題のようになってしまっていることに葛藤がありました。「アートを通した新しいきっかけづくりで、気候にかかわることの難しさを減らしたい！」そんな想いでHELP展を開催しました。



塩畑 真里子

気候変動・エネルギー担当

これからの日本のドライビングチェンジキャンペーンを率います。グリーンピースのスタッフになる前は、国際NGOでグローバル・サウスの社会開発、人道支援に長年従事していました。アフリカやアジアで気候危機の影響による干ばつや洪水によって人々の日常生活が打撃を受ける姿を目の当たりにしてきました。新しい体制で、日本の交通セクターの脱炭素化に貢献すべく、邁進していきます！

スタッフより

私たちが住む地球はいま、「三重の危機」に直面しています。温暖化による気候変動、速いスピードで種が絶滅し続ける生物多様性の喪失。有害化学物質などによる汚染と廃棄物... 50年前と比べ20倍にも増え、現在も増え続けているプラスチックが、3つの危機に拍車をかけています。グリーンピースは企業やルールを変える国際社会のリーダーに力強く働きかけ、暮らしやすく気候に優しい方法でプラスチック問題の解決に多方面から取り組んでいます。



Good Life 使い捨てない豊かな生活へのチェンジ

カフェと一緒に、使い捨てないカフェタイムを実現させる

ほっと一息つけるカフェタイムは環境にも優しいものであってほしい。多くのカフェユーザーの願いが大きく前進した2023年。今年も、カフェの仕組みを使い捨てに頼らないものに変えたいという市民の声を基に活動してきました。

1 スターバックス 1,500店舗で 店内用グラス導入へ

2月、スターバックスコーヒージャパンが全国の1,500の店舗で、繰り返し使える店内用グラスを導入することを発表しました。店内用グラスの利用が徹底されれば、店内での使い捨てカップの消費は大幅に削減されます。スターバックスは世界最大のカフェチェーンですが、飲料の多くが店内・テイクアウト問わず使い捨ての紙（プラスチックコーティング）やプラスチックカップで販売されています。使い捨てカップの消費量が大きいスターバックスの変化が、日本中のカフェチェーンや他業界の使い捨てビジネスの変化を促す可能性があります。グリーンピースは2021年から繰り返し使えるリユースカップの推進を呼びかけてきました。

2 市民参加型のカフェ調査

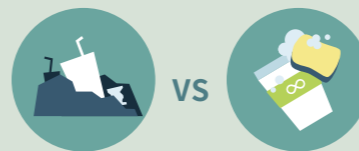
9月、全国のスターバックスとタリーズ店舗で市民参加型のカフェ調査を実施しました。環境に優しいカフェを求める人々が計150店舗に足を運び、各店舗内でリユースカップがどれくらい使われているかを調べました。店内用グラスを導入したスターバックスをはじめ、店内用のリユースカップを用意しているカフェは少なくありませんが、使い捨てではないマグカップやグラスが「実際に使われているかどうか」が大切です。

調査の結果、店内用グラスが導入されたスターバックスの店内のリユース使用率は41%と、前回調査から前進が見られました。一方、タリーズの店内リユース使用率は12%にとどまり、大幅な改善の必要性が明らかになっています。カフェチェーンの前進と課題が浮かび上がりました。この調査を受け、タリーズコーヒージャパンは店内用マグカップ・グラス利用の全国的な強化に言及しました。

市民が150店舗*で見てきた 店内リユースの状況



*スターバックス 95店舗、タリーズ 55店舗



7つの環境影響項目について、使い捨てカップシステムと比較したリユースカップシステムの環境パフォーマンス改善率(%)

	気候変動 (CO2換算 排出量)	淡水の 生態毒性	海洋の 生態毒性	粒子状物質 の生成	人体毒性	化石燃料 の使用量	水の 使用量
使用頻度 低	18.3	21.5	25.1	42.5	48.9	-19.6	35.8
使用頻度 中	27.2	27.3	31.2	48.3	54.8	-2.9	38.2
使用頻度 高	30.2	29.2	33.2	50.2	56.7	2.7	39.0

報告書『リユースが拓く未来』より。リユースカップのほうが環境負荷が低いことがわかった。(調査地：東京)

3 リユースカップシステムの環境への影響を調査

テイクアウトにおいて、返却式リユースカップを普及させることは、これからのカフェに求められる重要な課題です。11月、グリーンピースは、リユースカップと使い捨てカップの環境影響16項目を調査し、両社の環境負荷を比較した調査報告書を発表しました。主にテイクアウトで使われるリユースカップと使い捨ての仕組み、それぞれの環境負荷を、資源採取や原料生産から、流通、消費、廃棄やリサイクルに至るまでのライフサイクルの全体において数値化しました。

その結果、リユースカップの仕組みは、小規模でも使い捨てカップよりも優れていることがわかりました。より多くの方がリユースカップを使うほど、また、リユースカップの仕組みが大きく広がるほど、CO2の排出だけでなく水の消費量含むほとんどの環境影響項目において負荷がより低くなることもこの調査で判明した重要な事実です。リユースカップシステムの環境優位性を、実際の事業者データを基に網羅的に評価したこの調査は、今後のテイクアウトのあり方に強い影響を与える科学的根拠となり得ます。



国際プラスチック条約で 仕組みを変える

世界的なプラスチック汚染の解決の鍵を握るのが「国際プラスチック条約（プラ条約）」です。現在制定に向けて交渉が進んでいるプラ条約はプラスチックをめぐる世界のルールを変える可能性があります。

2023年には、5月と11月にそれぞれフランスのパリとケニアのナイロビでプラ条約の内容を決めるための国際会合が行われました。最も重要な争点は、避けられないはずの「プラ生産の規制」です。世界の平均気温の上昇を1.5°C以内に抑えるためには、プラスチックの生産量を少なくとも現在の75%に減らさなくてはならないことがわかっています。そのため不可欠なのは、プラ条約による生産規制です。グリーンピース・ジャパンからもこの2回の国際会合（INC-2、INC-3）にスタッフが参加し、最前線の交渉プロセスで強力な条約を求めました。現場で、そして市民とともに世界中で、グリーンピースはプラスチック汚染を発生源から終わらせる条約を求めて活動しています。



INC-3に参加したグリーンピース・ジャパンのシニア政策渉外担当の小池宏隆とグリーンピース・アフリカのプラスチック問題担当者（2023年11月）



各界をつなぐシンポジウム開催

9月28日には、イクレイ日本事務局とともに、国際プラスチック条約シンポジウムを開催しました。ビジネス界や企業、自治体、若年層団体などから幅広いステークホルダーが参加し、プラスチック問題の解決を目指して条約交渉の現状や今後について話し合いました。

グリーンピースからは、シニア政策渉外担当の小池が登場し、生産規制をはじめプラ条約に求められること、現在の日本がそのリーダーシップを発揮できる可能性について発表。各界の第一人者たちが一堂に会したことで、それぞれの事情を理解した上で、目指すべき具体的な目標が明確になりました。効果的なプラ条約のために日本にできることは数多くあります。国際プラスチック条約は2024年に予定されているあと2回の国際会合（INC-4 カナダ、INC-5 韓国）を経て、2025年までに制定される予定です。

グリーンピースは世界中の300万人の支援者と協力し、実効的な条約を求めて精力的に活動しています。幅広い関係者が集まり現状と課題に関する共通認識を生み出せるシンポジウムの開催は、来たる国際会合での建設的な交渉プロセスのために重要な意味を持っています。

#リユースでラブアース

使い捨てではなく「リユースがもっと広がってほしい」と願う人たちが「#リユースでラブアース」のハッシュタグキャンペーンに参加し、普段使っているマイタンブラーやマイ容器の写真をSNSでシェア。100件を超える素敵な投稿がありました。



支援者のみなさまからの希望のメッセージ

社会の変化を作るムーブメントの中心にいるのは、グリーンピースの活動の原動力である支援者のみなさまです。2023年にグリーンピースの支援者になった方々から、グリーンピースに寄せられた希望のメッセージを紹介します。

“グリーンピースの「独立」の理念に共感して寄付をしています。企業や政府に頼らず自由に柔軟な活動を行うためには、個人のサポートが必要不可欠だからです。グリーンピースは平和でグリーンな未来へのビジョンを示し、私たちにパワーをシェアしてくれる団体だと思います。” (松本様)



“グリーンピースの断熱のセミナーに参加したのがきっかけです。真面目な取り組みに共感しました。世の中を変える挑戦はいつも波風を立てますが、グリーンピースは勇気をもって取り組んでいると思い尊敬します。正しいことは後から振り返ってわかりますが、何もしないはこの時点で間違いでしょう。私の住む長野県は知事が先頭に立ち、脱炭素で国を上回る取り組みを掲げています。チャレンジするものを支えたいと思います。” (つね様)



遺贈寄付 未来の子どもたちに何を残したいですか

支援には様々な方法があります。

遺言によって財産を個人や団体などにのこす「遺贈寄付」もそのひとつです。国内ではまだ馴染みのない遺贈寄付ですが、未来の子どもたちや次の世代に希望を託す効果的な社会貢献として、注目され始めています。グリーンピースへの遺贈寄付を決めてくださった方のストーリーを紹介します。

“遺言書を作成して、すっきりさわやかな気持ちです”

愛知県在住 杉澤様

杉澤さんが終活を始めたのは、現在のお住まいに引っ越されたことがきっかけです。65歳の時でした。

「引っ越すときにあまりの荷物の多さに、思い切って減らすことにしました。財産についても、子どもがいないのでどうするか決めなければいけないと思って、自然環境をまもる活動に使っていただこうとグリーンピースさんにお尋ねしました」

遺贈について知った杉澤さんは、遺言書を作ることを決心したそうです。

自然に対する思いがつかないだ、弁護士との素敵なお縁

遺言書の作成には、専門家の手を借りるのが安心。グリーンピースから《みどりの遺言》^{※1}の所属弁護士をご紹介しますと、偶然、杉澤さんはその法律事務所をすでにご存じでした。

「その弁護士さんには、ずっと以前に地元の緑地が開発でなくなってしまうのを防ぐトラス活動のため、相談したことがあったんです」

遺言書作成の過程で、不動産は売却して寄付したほうが良いこと^{※2}や、山林は売却も寄付も難しいこと、謄本や登記簿などの書類をそろえること、財産の目録作りなどの作業がたくさんあることを知りました。「自分で遺言書を書くのは難しい」と杉澤さんは実感します。自筆遺言には細かなルールがあり、不備があると無効になることも。公正証書遺言を作成し、遺言執行者を専門家に指定しておけば、手間のかかる作業はおまかせできます。「遺された人は何もしなくていいから安心」という杉澤さんの言葉どおり、遺言書作成は配偶者や子どもなど、遺していく人のためなのです。

人生の終わりは責任を持って未来につなげたい

自然をまもりたいとの思いから、杉澤さんは、地球規模の環境問題に取り組むグリーンピースなら、と25年以上支援を続けてくださっています。ところが終活中にも、売却した不動産が壊されて大量の廃棄物になる現実を体験し、家屋だけでなく生活用品も最後はゴミ処理されることは明らかで、スクラップアンドビルドに加担していたことを痛感。杉澤さんは「後始末の難しさや大切さに気づいた」と話されます。

「原発を作るときも、目先しか見てなくて、核のゴミの行き先を考えてないんです。私も若いときは前を見て進むばかりでしたが、どうやって終わらせるかまで考えて行動することが大切ですよ」

未来の地球のことを考えて自然をまもる活動をすることと、終活をして自分の人生の最期を準備することは、重なり合うところがあるのかもしれない。

「遺言書を作成して、肩の荷がおりさわやかな気持ちです」

いまの気持ちを語る杉澤さんの声は明るく、充実した現在の暮らしぶりが伝わってくるようでした。

グリーンピース・ジャパンでは、現金だけでなく、包括遺贈や不動産や土地のご寄付も受け付けています。もちろん、少額からのご寄付や、残ったらという指定の方法も可能です。遺贈を具体的にご検討されている方、あるいは弁護士など専門家への無料相談をご予約くださった方には、特製エンディングノートを差し上げております。ぜひ、お気軽にお問い合わせください。

☎ 03-4330-7678 (遺贈 / サポーター窓口)

※1 《みどりの遺言》は、環境問題に関心が高く、遺贈にも詳しい弁護士の団体です。グリーンピースは《みどりの遺言》より信頼のおける寄付先として推薦を受けています。

※2 現金以外のご寄付につきましては、可能な限りご希望にそうためにも、ぜひ事前にご相談ください。場合によってはお受けするのが難しいケースもございます。

より多くの市民がグリーンピースのキャンペーンに楽しく参加できるよう、様々な活動を展開しています。環境問題について学び、それぞれのアイデアや個性を活かした活動を行なう中で、グリーンピースのコミュニティで繋がったたくさんの方が素敵な仲間になりました。



© Daiki Tateyama

Volunteers & Interns ボランティア&インターン

投票で自治体の気候変動対策を前進！ シロクマダンスでアピール

グリーンピース・ジャパンが事務局を務める、自治体の脱炭素を進める市民のプラットフォーム「ゼロエミッションを実現する会（以下ゼロエミ）」の横浜では、横浜市西区の日本丸メモリアルパークで、「地球のために投票を！～横浜の中心でシロクマが踊る～」を4月1日に開催し、多くのボランティアさんとともに、1週間後の統一地方選で、気候変動対策を踏まえた積極的な投票を呼びかけました。



© Taishi Takahashi / Greenpeace

8000人が再エネ100%と公正な社会を求めパレード

9月18日、東京の代々木公園で、再エネ100%と公正な社会をテーマにしたイベント&パレード「ワタシのミライ」が開催されました。

約8000人の参加者が原発も気候危機もない、公正な再エネ100%の未来を求めて声をあげました。イベントではリユース容器を使用したフードやドリンクの販売が行われ、グリーンピース・ジャパンがボランティアメンバーとともにリユース容器の運営を担当。メンバーにとっては初めての取り組みでしたが、当日の様子を見た参加者から実施方法について問い合わせを受けるなど、リユースの普及にも貢献しました。



また、ゼロエミはブースを出展し、「自分のまちの気候対策」をテーマに来場者と交流。他にもゼロエミ国立チームは国立市に高い二酸化炭素削減目標への期待と応援の気持ちを伝えるための寄せ書きを集め、ゼロエミ小金井チームは、まちにあった嬉しいものを参加者に描いてもらうイベントを開催。それぞれ来場者と楽しい時間を過ごしなが、アクションの大切さを伝えることができました。

再エネ100%と公正な社会の実現のために、脱原発や気候危機だけでなく、ジェンダーや貧困などの社会課題に取り組む団体と協力してイベントが開催さ

インターンの活動

2023年は、8名がインターンとして活躍しました。ゼロエミのコミュニティチャットやSNS・イベント運営、9月に開催した「国際プラスチック条約シンポジウム」の企画準備やプレゼン、各種プロジェクトを進めるために必要なリサーチや資料作成など、多岐に渡る活動に参加しました。2024年も新しいメンバーが加わり、すでに活躍中です！

政策渉外担当のインターンとして、国会や省庁、地方自治体の環境に関するリサーチ業務、重要な政治的モーメントに応じたイベントの企画運営のサポートなどを行いました。これまで大学・大学院では、「机上の空論だけで済まず、実践に移すには」を課題に、国際関係／政治学を通して環境問題に触れてきました。そんな私にとって、実際に政治を動かすこの部署でのインターン活動は、今後のキャリア形成において重要な時間でした。特に、日本の気候変動対策の根幹である「エネルギー基本計画」に関するリサーチに携われたことは、非常に貴重な経験でした。



竹内 絢子さん



野崎 里奈さん

インターンでは主に SNS 関連の業務と行政に働きかけるプロジェクトに携わらせていただきました。統一地方選挙や「気候変動 きほんのき」といった気候変動についての気づきや知識を高めるためのコンテンツを企画・発信しました。また、行政と関わる実践的なプロジェクトを通して市民の行政を変えるちからや草の根の力の可能性を実感することができ、気候変動の軸で行政や政策へのアプローチや環境影響の評価等をより専門的に学びたいという次の目標もできました。SNS のみならず、幅広く業務を任せさせていただいたことや、同じ気持ちを持つ仲間に出会えたことはかけがえのない経験になったと強く感じています。

れたことは大きな意義をもちます。現代を生き、社会について考える人たちの姿を映し出すデモの様子は活気に満ちあふれ、今回は参加が難しかった人たちをも勇気づけています。グリーンピースは今後もこの経験を活かして活動を継続します。



東京レインボープライドに出展

2023年4月23～24日にかけて開催された東京レインボープライドにグリーンピースとボランティアが参

加しました。5月に広島で開催される G7 首脳会議が近づく中、日本は G7 の中で唯一 LGBTQIA+ の包括的な権利を法的に保護していない国であることから、このタイミングでおこなわれたプライドは特に重要でした。

グリーンピースのブースに立ち寄った人たちからさまざまなトピックについての質問を受けたり、オープンな対話の機会を得ることができました。私たちが望む地球は、自然豊かで公平で、誰もが自分自身のまま生きやすい地球です。クィア・コミュニティとの連帯を示すことの意義が浮き彫りになった瞬間でした。



© Natsuki Fujii / Greenpeace



2023年も、様々な分野で活躍している専門家や文化人、各分野で活躍する方々がグリーンピースのキャンペーンに参加してくれました。環境問題に取り組み、人々をインスパイアするトップランナーたちとのコラボレーションを通じて、大切なメッセージを親しみやすく伝えています。



トークイベント「海とプラと私たちの暮らし」で対談するモデルのNOMAさんとフォトグラファーのMARCOさん (2023年11月)

Collaboration 著名人が参加した環境キャンペーン

国際会議《G7サミット》 エキスパート7人の環境への想い

2023年5月19日から21日まで広島で開催されたG7サミット。今回のG7サミットについて、日本の各分野でそれぞれ活躍している環境のエキスパート7人、自然エネルギー財団 事業局長の大林ミカさん、気候アクティビスト / モデルの小野りりあさん、

環境エネルギー政策研究所 所長の飯田哲也さん、国際環境 NGO FoE Japan 開発金融と環境キャンペーナーの長田大輝さん、鹿児島大学の学生の中村涼夏さん、グリーンピース・ジャパンのアンバサダーで環境活動家・プロダイバーの武本匡弘さん、そしてグリーンピース・ジャパン プログラム・マネージャー 高田久代にインタビューし、想いを聞きました。



平和で安全な
未来のために
気候も暮らしも救う
エネルギー政策を！

HELP展 ～30年後には消えてしまうかもしれない～

2023年11月17日(金)～26日(日)の期間に、東京のLIGHT BOX STUDIO AOYAMAにて、開催したアート展「HELP展～30年後には消えてしまうかもしれない～」では、ぬいぐるみ作家の片岡メリヤスさん、八劍神社宮司の宮坂清さん、料理研究家の土井善晴さんら多様な作家、文化人の方々とコラボレーションが実現しました。また、15名のボランティアが参加し、受付や作品説明までこなしてくださいました。



料理研究家 土井善晴さん

トークイベント：海とプラと私たちの暮らし、 気温の変化と御渡り

HELP展の特別企画として、グリーンピース・ジャパンのプラスチックキャンペーンのアンバサダーを務めるモデルのNOMAさん、フォトグラファーのMARCOさんと共に、「海とプラと私たちの暮らし」をテーマに、自分たちができる環境問題についてお話ししました。また、長野県の八劍神社宮司の宮坂清氏を招いたトークイベントでは「気温の変化と御渡り」をテーマにしたお話をお聞きしました。長野県の中部、諏訪盆地にひろがる諏訪湖には、「御神渡(おみわた)り、御渡(みわた)り」と呼ばれる完全結氷した湖の亀裂が迫り上がって湖面を横断する自然現象があります。かつては冬になると毎年見られていた御渡りですが、近年は温暖化が要因のひとつとなって発生が激減。御渡りの神事を司る八劍神社の宮坂宮司と、グリーンピース事務局長サム・アネスリーが対談しました。



八劍神社宮司 宮坂清さん

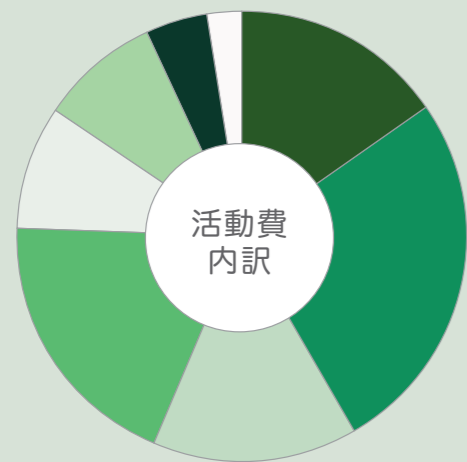
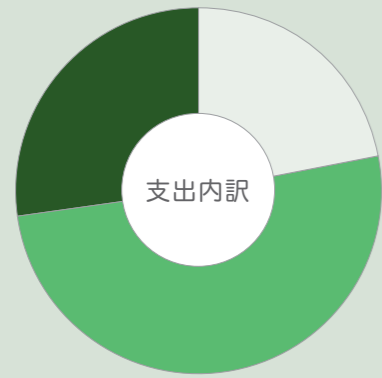


会計報告

グリーンピース・ジャパンの2023年度(1月～12月)における財務報告書は、日本の「一般に公正妥当と認められる監査の基準」(J-GAAS)に準拠して作成され、SCS 国際有限責任監査法人により会計監査を受けたものです。2023年度はグリーンピース・東アジア、および個人基金等から人的・資金的な支援を得て、独立した国際環境NGOとして地球規模の環境問題に関する啓蒙活動をおこない、持続可能でグリーンで平和な未来のための提案を行いました。

2023年はゼロエミッションを実現する会、ドライビングチェンジ、Climate x Art (HELP展)、デジタルアートブース「エラーコード：秋」、原発・放射能問題、そしてプラスチック問題などに精力的に取り組みました。グリーンピース・東アジアとグリーンピース・ジャパンが連携と関係強化を図って3年目となりますが、東アジアオフィスとともにキャンペーンを展開することで、グリーンピース・ジャパンの活動はさらに実質的にグローバルキャンペーンとして機能し、より大きなインパクトを持つ成果を上げてきました。

いくつかの困難があったにもかかわらず、キャンペーン活動は堅調を維持し、プロジェクト活動も増加しました。これは、献身的なチームと寄付という形でグリーンピースの活動を継続的に支えてくださっている、みなさまのおかげです。今後も、明るい未来のために、環境保護と持続可能な社会の実現を目指すという使命に全力を注いでまいります。



2023年度 総収入 4億1450万円	寄付金総額 前年度比：1325万円 減 (6% ↓)
	グリーンピース・東アジアからの支援 前年度比：6997万円 減 (24% ↓)
2023年度 総支出 4億4899万円	プログラム活動費 (2億2800万円) 前年度比：2940万円 増 (15% ↑)
	ファンレイジング活動費 前年度比：732万円 減 (6% ↓)

グリーンピースは企業や政府から一切の資金援助を受けていない国際環境NGOです。この独立した立場を保つには個人からのご寄付が不可欠です。2023年度も、皆様の支えのおかげで、気候変動を食い止め、地球の恵みを100年先の子どもたちに届けるための活動を続けることができました。“行動するNGO”として、世界中の方々々と協働しながら調査活動を行い、科学的根拠に基づいた提案をもって企業や政府に働きかけ、メディアやサポーターさんをはじめとした多くの方への情報提供を行うことができました。グリーンピースの活動を支えてくださった多くの皆様に、心より感謝申し上げます。

数字で見る2023年

より多くの市民が声をあげることで、変化を生み出す力は一層強くなります。環境と地球の未来を考えたともに行動する仲間が存在が、グリーンピースの行動力の源です。

6,730 人
寄付サポーター数

5,000 人*1
イベント参加者数

120 人
新規ボランティア登録者数

2,774 件*2
メディアで紹介された件数

2,061,003 回
ウェブサイト総閲覧回数



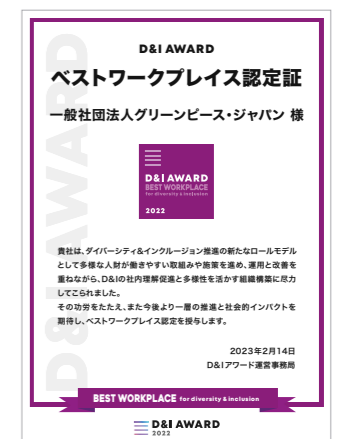
*1：約5,000人。通常のイベントの他、学校での講義、企業研修、記者向け勉強会、ライブ配信などを含みます。

*2：2023年からメディア掲載の評価方法を変更し、よりグリーンピース・ジャパンの実質的な活動に直結する数字に統一しました。昨年までの数字と単純比較はできません。



ベストワークプレイス認定

理想の実現は社会の中だけでなく、もちろん内側からも実行していかなければなりません。グリーンピースは、JEDIS (正義、公平性、多様性、包括性、そして安全性) の原則を大切にするインクルーシブな職場づくりに取り組んできました。努力の結果、グリーンピース・ジャパンは多様性と包括性のある職場づくりに取り組む企業を認定・表彰する日本最大のアワード「D&Iアワード2022」においてベストワークプレイスに認定されました。グリーンピースは、より環境に優しい世界は、優しさと包括性があること達成されると信じています。



グリーンピース・ジャパン 概要

名称	一般社団法人 グリーンピース・ジャパン
所在地	〒105-0004 東京都港区新橋 3丁目3-13 Tsao Hibiya 12F
設立年月	1989年4月
代表理事	青木 陽子、寺中 誠
事業対象分野	地球環境保護（気候変動/エネルギー/原子力問題、プラスチック問題、有害物質問題、森林問題など）
活動対象範囲	全世界
具体的な活動手法	① 環境破壊の実態を科学的に調査・分析し公表 ② マスメディア、市民メディア、会員への情報提供 ③ 環境破壊を止めるための行動の呼び掛け ④ 環境破壊の現場での抗議活動 ⑤ 政府・企業などへの提案・要請 ⑥ 環境問題を解決に導くための代替案の提示 ⑦ 国際条約の交渉過程を監視、提言 非暴力行動・政治的独立・財政的独立
方針	
会員	6,730人（国内）、約300万人（世界全体） ※2023年12月時点
事務局	国内有給職員 34名（うち、時間給制職員6名） ※2023年12月時点

日本を含む世界55以上の国と地域を拠点に活動を展開しています（有給職員約3,331名）※2023年12月時点



ご寄付 は Webサイト

やEメール、お電話でも
お申し込みいただけます

03-4330-7678

supporter.jp@greenpeace.org

@greenpeacejp

GreenpeaceJapan

@GreenpeaceJP

www.greenpeace.org/japan

国際環境NGO グリーンピース・ジャパン

GREENPEACE

オフィスが移転しました

グリーンピースの環境保護活動は年々拡大し、スタッフ数も増えてまいりました。そのため、2023年8月1日より下記住所へ事務所を移転いたしました。この移転を機に、科学的根拠に基づいた確度の高い提案と、徹底した現場主義を軸に、「行動するNGO」としてさらなる活動に邁進してまいります。今後とも変わらぬご支援をいただきますよう、心よりお願い申し上げます。



〒105-0004 東京都港区新橋 3丁目 3-13 Tsao Hibiya 12F
Tel. 03-4334-6986 Fax. 03-6838-9242（電話・Fax番号も変更しました）